



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

【 2012 年度 活動報告 】

《2012 年度活動実績・2013 年度活動計画》

2013 年 3 月 31 日

(更新：平成 25 年 5 月 31 日)

## 目次

1. はじめに .....	2
2. 当会運営 .....	3
(1) 役員・スタッフ .....	3
(2) サポートスタッフ .....	3
(3) 定例会・管理事項等 .....	3
(4) 安全対策など .....	3
(5) 教育関係（自主習得） .....	3
(6) 保有備品（個人保有を除く） .....	3
(7) 長期スタッフより .....	4
3. 2012年度（平成24年度）活動実績 .....	5
(1) 活動主旨 .....	5
(2) 活動実績 .....	5
(3) 会計報告 .....	8
(4) 応援者数・アンケート等 .....	12
(5) 活動状況（抜粋） .....	13
4. 2013年度（平成25年度）活動計画 .....	29
(1) 活動方針 .....	29
(2) 活動方向 .....	29
(3) 活動概要 .....	30
(4) 年初計画より一部変更事項（支援金使途計画） .....	33
(5) 予算計画 .....	34
(6) 活動日程（計画） .....	35
5. 最後に .....	36

## 1. はじめに

2011年5月より岩手県に3分の1、宮城県に3分の1、そして福島には個人で3分の1として福島応援の活動を進め、2011年10月より福島応援隊として有志の方の応援を頂き活動を一步前に進め、2012年1月11日に当会(kfop)を設立させて頂きました。

2012年の設立前の2011年10月から翌3月末までは4月より福島にボランティアバスを出すべく、事前準備を進めさせて頂きました。

- ・バスをなかなか福島へだして頂けない。
- ・福島へボランティアバスを出すことへの理解がなかなか得られない。
- ・活動内容に関しての理解がなかなか得られない。

そんな環境の中で

- ・バスは横浜の『シティアクセス株式会社』様から出して頂きました。
- ・活動先はスタッフ含めて現地に赴き受入れの調整をさせて頂きました。
- ・専門ボランティアでは無い為、力量が不足で行けないところもありました。

当会の応援者は2012年1月末時点で48名、現在(2013.3.31)に置いては167名(内会員は119名)と多くの方に応援を頂くことが出来ました。

福島での活動は

- ・福島市の福島市社協募集の除染ボランティア(渡利地区、大波地区)。
- ・福島市の任意団体の復興応援活動(応急仮設住宅、借上住宅・近隣にお住いの皆様に)。
- ・南相馬市の小高地区へ鹿島区社協募集の屋外活動(山側、海側、街中)。
- ・南会津の大熊町での子供さん達へのイベントの支援活動。
- ・最終の福島12便では福島復興プロジェクトチーム「花に願いを」さんで活動が出来ました。

神奈川県内では、県内に避難されている方へのお手伝い(避難されている方々の気持ちは私達には分からないかも知れませんが、少しでも近づければ、との気持ちで。)

- ・かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークに協力し、弁護士よろず相談会。
- ・同、町別(浪江町、双葉町、富岡町、楡葉町、大熊町)交流会。
- ・同、また共催し「ふるさとコミュニティinかながわ」の県内全体の交流会。

など、活動及び協力が出来ました。

ご参加頂きました皆さん、応援を頂きました皆さん、寄付を頂きました皆さん、支援金を頂きました財団法人神奈川県建築安全協会様、そして私達を受入れて下さいました現地の皆様、交流会にお越し頂きました避難されています皆様(県外からもお越し頂きました)、同じく交流会にご協力を頂きました行政の皆様(福島県、浪江町、双葉町、富岡町、楡葉町、大熊町)。

ここに、かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)を代表し、お礼申し上げます。

かながわ「福島応援」プロジェクト  
代表 なべ(渡辺孝彦)

## 2. 当会運営

### (1) 役員・スタッフ

代表 兼会計兼営業	渡辺 孝彦	全体
管理	村上 幸	I D、電子ファイル、議事録他
事務	山下 圭子	バス座席表、スタッフファイルなど
広報	東 尚子、鎌田 隆一 (チラン等)	記事、HP掲載等
活動スタッフ	戸沢 正弘、長崎 羊子	当日バス・活動スタッフ、他全員で
相談役	山内 淳、御園生 芳行	相談など

### (2) サポートスタッフ

サポートスタッフ	小野寺 孝徳、白石 美保	協力スタッフ
----------	--------------	--------

### (3) 定例会・管理事項等

定期開催	神奈川県民サポートセンター10F	H 2 4年度5 0回開催
議事録	管理担当で議事録作成・管理	電子ファイルで保管
会計監査	上下期締めで内部会計監査実施	H 2 4年度1 0月実施
寄付・寄贈	HPですべて掲載	ご寄付のページ
会計	HPですべて掲載	会計報告のページ

### (4) 安全対策など

ボランティア保険	活動参加者の加入を確認	参加申し込み時点で都度確認
行事保険	行事实施時に加入	クリスマス餅つき大会で加入
活動マニュアル	活動場所毎に作成し参加者へ周知	電子ファイルで保管
行程表	活動・バス行程表を都度作成	電子ファイルで保管
仮眠所	バス運転手仮眠所確保	福島トラックセンター都度当方手配

### (5) 教育関係 (自主習得)

除染等業務特別教育	渡辺孝彦、戸沢正弘、村上幸	ボランティア活動の知識として
安全講習(刈払機)	渡辺孝彦、戸沢正弘、村上幸	ボランティア活動の知識として
赤十字救急法 基礎講習	戸沢正弘	ボランティア活動の知識として
除染等業務作業指揮者教育	戸沢正弘 (受講予定)	ボランティア活動の知識として

### (6) 保有備品 (個人保有を除く)

TERRA-P	3台 (購入)	参加者用 (活動時の積算管理)
メディキタスCK-6	8台 (寄贈)	参加者用 (活動時の積算管理)

(7) 長期スタッフより

村上 幸	管理 ・ 活動スタッフ
<p>2012年4月から1年間毎月、福島にバスを出し続けられたのは、福島に心を寄せて集まってくださった参加者のみなさんと、ご協力いただいているすべてのみなさんのおかげです。心より感謝しています。kfopの活動を通じて、たくさんの人にお会いし、様々な考え方に触れ、人の力のすごさを改めて感じました。</p> <p>かながわからふくしまに、ふくしまからかながわに、たくさんの暖かい交流が生まれるお手伝いを、これからも続けてまいります。</p> <p>≪定例会、管理・議事録、活動準備、当日スタッフなどして頂いています。b y代表≫</p>	
山下 圭子	事務
<p>夜行ボラバスに乗るとバテて翌日活動ができないため、横浜でKSVNとkfopボラバスを送り出してきました。震災直後より「偶然、自分が被災者でないだけ」との思いでボランティアを続けています。福島に住んでいる人たちが、早く安心して暮らせる環境（心理的・物理的）になるように、自分ができる範囲のことを続けていきたいと思っています。</p> <p>≪定例会、バス座席表、スタッフファイル準備などをして頂いています。b y代表≫</p>	
戸沢 正弘	活動スタッフ ・ 会計 (旧)
<p>活動スタッフをさせて頂いています。</p> <p>自己責任が原則のボランティア活動ですが、参加される皆様の安全を第一に取り組んでおります。被災された皆様のニーズがある限り、災害ボランティアとしての活動を継続して参ります。</p> <p>≪定例会、現地調整、活動準備、当日スタッフなどをして頂いています。b y代表≫</p>	
東 尚子	広報 ・ 活動スタッフ
<p>福島の方々に向けてどのような支援ができるのか常に迷いながらも、これからも長期にわたって寄り添っていくつもりです。私が担える役割のひとつは、自分の目で見て、直接お話しを伺うこと、それをできるだけ客観的に支援者の皆さんにお伝えしていくことだと考えています。それが、さまざまな支援の形のヒントになることを願っています。</p> <p>≪定例会・広報、活動準備、当日スタッフなどをして頂いています。b y代表≫</p>	

※スタッフは出来ることを出来る範囲で協力し進めています。また各々の活動は尊重です。

### 3. 2012年度(平成24年度)活動実績

#### (1) 活動主旨

当会は、今までと同じように笑顔が溢れ、子供たちも楽しく、のびのびと遊んでいる福島県であることを願い活動を展開し、また、神奈川県から応援の輪を広げるために一人でも多くの方の参加者を募り活動していきたい。そんな願いで福島の応援を進めてきました。

活動概要としては

- ・直接活動（福島に直接行き、街中掃除、避難されている方へのお手伝いなど）
- ・情報発信（福島での活動、福島の観光情報、温泉情報、果物情報などなど）

個人の集まりで出来ることを進めました。

#### (2) 活動実績

##### ①現地活動

実施月	便名	活動場所	活動概要	参加者数(男,女)
4月	福島0便	福島市渡利地区	除染ボラ	5人(3,2)
	福島1便(春一番号)	福島市渡利地区	除染ボラ	26人(20,6)
5月	福島2便(皐月号)	福島市大波地区	除染ボラ	26人(19,7)
6月	福島3便(福島号)	福島市渡利地区	復興支援	27人(18,9)
7月	福島4便(福島2号)	福島市渡利地区	復興支援	21人(14,7)
8月	福島5便(南相馬号)	南相馬市小高地区	瓦礫支援	24人(18,6)
9月	福島6便(南相馬2号)2台	南相馬市小高地区	瓦礫支援	43人(32,11)
10月	福特1便(会津1号)	会津若松市	子ども支援	5人(3,2)
	福島7便(福島3号)	福島市渡利地区	復興支援	22人(13,9)
11月	福島8便(南相馬3号)	南相馬市小高地区	瓦礫支援	20人(12,8)
12月	福島9便(福島3号)	福島市渡利地区	復興支援	22人(11,11)
1月	福島10便(福島4号)	福島市渡利地区	復興支援	23人(14,9)
2月	福島11便(福島5号)	福島市渡利地区	復興支援	22人(13,8)
3月	福島12便(花に願いを号)	福島市内	除染ボラ	22人(12,10)
合計	バス13台(小型6台、中型7台)、自家用車2台 除染ボラ4回、復興支援6回、子供支援1回、瓦礫支援3回			延べ308人 (203,105)

②県内支援活動－1（弁護士よろず相談会協力）

実施月	弁護士よろず相談会名	実施場所	活動概要	協力者数
9月	しゃべり場・相談会協力	横浜市旭区	協力	2人
		相模原市中央区		1人
		大和市		1人
10月	しゃべり場・相談会協力	横浜市旭区	協力	5人
11月	しゃべり場・相談会協力	大和市	協力	1人
		横浜市青葉区		2人
		相模原市中央区		1人
1月	しゃべり場・相談会協力	横須賀市	協力	1人
2月	しゃべり場・相談会協力	横浜市鶴見区	協力	4人
		川崎市中原区		1人
3月	しゃべり場・相談会協力	横浜市戸塚区	協力	1人
合計	しゃべり場・相談会協力	11回	協力	延べ20人

②県内支援活動－2（町別交流会協力）

実施月	実施町	開催場所	活動概要	協力者数
9月	浪江町交流会	県サポ2階	協力	2人
	富岡町交流会	県サポ2階	協力	2人
	双葉町交流会	県サポ2階	協力	2人
10月	大熊町交流会	県サポ2階	協力	2人
	鎌倉交流会	鎌倉建長寺	協力	1人
11月	檜葉町交流会	県サポ2階	協力	2人
1月	浪江町交流会	県サポ2階	協力	2人
2月	富岡町交流会	県サポ2階	協力	2人
	双葉町交流会	県サポ2階	協力	3人
3月	大熊町交流会	県サポ2階	協力	3人
	檜葉町交流会	県サポ2階	協力	3人
合計	町別交流会他	11回	協力	延べ24人

## ②県内支援活動－3（交流会協力）

実施月	交流会名	実施場所	活動概要	参加者数
7月	ふるさとコミュニティ in かながわ	県社協	協力	7人
3月	第2回ふるさとコミュニティ in かながわ	波止場会館	共催	10人
合計	ふるさとコミュニティ	—	—	延べ17人

## ②その他活動－4（その他、抜粋）

実施月	活動名	実施場所	活動概要	参加者数
6月	大波城址ひまわり播種	福島市大波	協力	2名
7月	南相馬市鹿島区社協他往訪	南相馬市	往訪	4名
7月	福島県立あさか開成高校演劇	かなつくホール	鑑賞	1名
8月	福島市役所訪問	福島市	訪問	3名
8月	大波城址ひまわり開花	福島市大波	訪問	3名
8月	福島りょうぜん漬け本店	福島市大波	訪問	3名
12月	財団法人神奈川県建築安全協会様	同左	活動発表	3名
12月	ふくしまキッズ参加	横浜市	参加	4名
2月	福島県庁訪問（実行委員会で）	福島市	訪問	1名
2月	浪江町役場訪問（実行委員会で）	二本松市	訪問	1名
2月	富岡町役場訪問（実行委員会で）	郡山市	訪問	1名
3月	「花に願いを」	福島市	訪問	1名
毎月	kfop 定例会	県サポ10F	定例会	50回
合計	（他、活動記録はHP参照）	—	—	延べ81人

## ③情報発信

実施月	活動名	実施場所	活動概要	回数
順次	当会HP掲載（活動報告・ブログ含む）	kfopHP	発信	110回
順次	ksvnHPに掲載依頼	ksvnHP	発信	4回
順次	福島名産応援、観光応援など	kfopHP	発信	14回
合計	（他、情報はHP参照）	—	—	128回



## (3) 会計報告

## 1. 会費会計 (事業会計)

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
福島第 01 便参加費	182,000 円	福島第 01 便活動費	172,535 円
福島第 02 便参加費	162,500 円	福島第 02 便活動費	148,530 円
福島第 03 便参加費	175,500 円	福島第 03 便活動費	146,500 円
福島第 04 便参加費	130,000 円	福島第 04 便活動費	141,310 円
福島第 05 便参加費	152,500 円	福島第 05 便活動費	130,889 円
福島第 06 便参加費	276,000 円	福島第 06 便活動費	260,000 円
福島第 07 便参加費	136,500 円	福島第 07 便活動費	140,910 円
福島第 08 便参加費	130,000 円	福島第 08 便活動費	130,210 円
福島第 09 便参加費	149,500 円	福島第 09 便活動費	146,170 円
福島第 10 便参加費	136,500 円	福島第 10 便活動費	148,170 円
福島第 11 便参加費	149,500 円	福島第 11 便活動費	146,500 円
福島第 12 便参加費	143,000 円	福島第 12 便活動費	147,110 円
正会員会費	123,000 円	福島復興支援で寄付	30,420 円
賛助会員会費	5,000 円	ふくしまキッズ寄付	10,262 円
受取利息	24 円	花に願いを賛助会費	10,080 円
預り金	5,000 円	視察交通費	42,034 円
		印刷費	33,353 円
		資料費	1,680 円
		事務費(ロッカー代)	2,400 円
		通信費	1,387 円
		備品・文具代	678 円
		消耗品費	210 円
		会議費	6,872 円
		振込手数料	262 円
<b>収入計</b>	2,056,524 円	<b>支出計</b>	1,998,472 円
<b>収支 (次年度繰越金)</b>			58,052 円

## 2. 寄付会計 (事業会計)

収入		支出	
寄付年月	金額	寄付用途	金額
2012年1月	1,000円	福島復興桜寄贈	10,000円
2012年2月	10,000円	福島復興種鎌寄贈	10,075円
2012年3月	34,660円	7月県内交流会	21,660円
2012年4月	43,000円	南相馬市復興センター寄贈	21,400円
2012年5月	26,000円	南相馬市活動センター寄贈	19,300円
2012年6月	31,000円	福島県子供支援寄付(3.11)	50,420円
2012年7月	10,000円	福島市子供支援寄付(3.11)	50,420円
2012年8月	397円	次年度計画視察費(3.1)	2,739円
2012年9月	8,500円		
2012年10月	13,000円		
2012年11月	55,830円		
2012年12月	12,000円		
2013年1月	3,000円		
2013年2月	329円		
2013年3月	51,700円		
特定寄付※1	45,898円		
缶バッジ寄付※1	57,471円		
受取利息	37円		
<b>収入計</b>	<b>403,822円</b>	<b>支出計</b>	<b>186,014円</b>
<b>収支 (次年度繰越金)</b>			<b>217,808円</b>

3. 支援金（財）神奈川県建築安全協会様（寄付会計別掲）

収入		支出	
支援金年月	金額	支援金使途	金額
2012年10月	300,000円	大熊町こども支援 (南会津、JAXA)	10,000円
		福島市借上住宅避難者支援 (花見山周辺で餅つき)	39,892円
		福島復興支援活動備品購入 (TERRA-P3台購入)	39,555円
		福島県復興支援 (缶バッジ購入190個※)	38,000円
		神奈川県内避難者支援 (交流会3月)	150,000円
		次年度活動視察費 (3月1日現地往訪)	22,553円
収入計	300,000円	支出計	300,000円
収支（次年度繰越金）			0

※「ふくしまからはじめよう」の缶バッジ

4. 活動総収入・総支出

総収入		総支出	
参加費	1,923,500円	バス直接費用	1,858,834円
正会員会費	123,000円	寄付・寄贈	181,957円
賛助会員会費	5,000円	視察費	44,773円
寄付	403,785円	7月県内支援	21,660円
支援金	300,000円	支援金での活動・機器購入等	300,000円
利息	61円	その他維持・活動費	77,262円
預り金	5,000円	—	-
収入計	2,760,346円	支出計	2,484,486円
収支（次年度繰越金）			275,860円

次年度繰越金はその名の通り、H25年度の活動に役立てます。

5.ご寄付を頂きました方々 (順不同、複数回ご寄付は重複掲載、お名前のみ)

マツノ モトシ 様	ヤマモト クニイサ 様	ksvn スタッフ イチドウ 様
トクメイ キボウ 様	リ ソウイチ 様	kfop サンカシャ イチドウ 様
カナガワ ハナコ 様	ミナミソウマイチゴウ ユウシ 様	イケニシ マサトシ 様
スズキ タダシ 様	シダ タカコ 様	ヤマウチ ジュン 様
イケダ 様	オオノ ユウコ 様	カンバッジ ゴキフ 様
モリタ キヨシ 様	カジタニ マコト 様	ヤマモト クニイサ 様
オー(O) 様	トモツネ アキラ 様	コミュニティ ユウシ 様
ミソノウ ヨシユキ 様	ハラセ マサヒサ 様	アッコ 様
コバヤシ カズオ 様	カライケガクエンユウシイチドウ様	-
モロミザト トモヒデ 様	カスガヤ マコト 様	-
チームポカポカ アレアレア 様	ソウベツカイ ユウシ 様	-
ミソノウ ヨシユキ 様	ムラカミ サチ 様	-

6.寄贈を頂きました方々 (順不同)

沢山の皆さまより	～04.19 双葉町さん(埼玉)への生活物資支援(直送) (トイレトペーパー : 252 ロール) (ティッシュBOX : 420 箱 ) (ペットボトル水 : 288 本 )
<a href="#">阪神淡路大震災 1・17 希望の灯り 様</a>	はるかのひまわりの種
コシミズ ヨシタカ 様	ひまわりの種
シライシ ミホ 様	80円切手/60枚(事務通信に使わせていただきます)
ヤマシタ キヨシ 様	印刷用紙3, 500枚/7冊(白・カラー紙) (打合せ資料、活動資料、バス座席表印刷などに使わせて頂いています)
サトウ ジュンコ 様	メディキタスCK-6 8台

7.支援金 (ご寄付) を頂きました方

財団法人 神奈川県建築安全協会 様

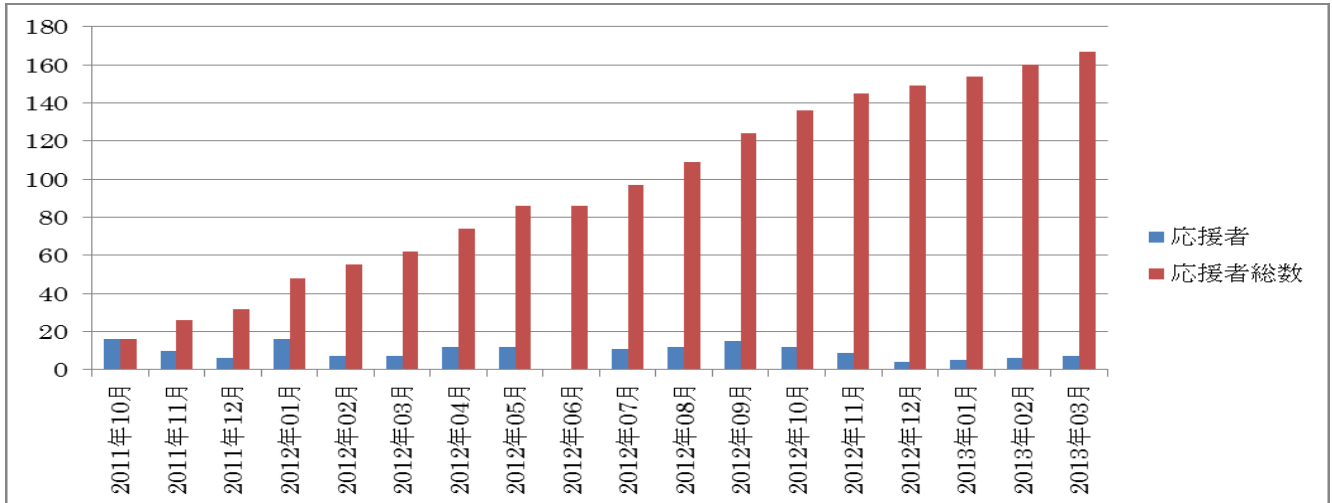
8.バス運行を頂きました方

シティアクセス株式会社 様

皆様の福島への温かいご支援に感謝いたします。  
 ありがとうございました。

#### (4) 応援者数・アンケート等

##### ①応援者 167名推移 (会員 119名・非会員 48名)



※参加者男女比は2：1程

※参加者は神奈川県全域、静岡県（御殿場・浜松）、東京都、千葉県よりご参加

##### ②アンケート1 (参加者の要望、一部です。)

よく頂く事項	現況
もう少し長い時間活動できないか	お風呂の時間と帰路の休憩時間を調整し出来る範囲でより役に立てるよう検討を続けます。
朝帰りにし定時まで活動できないか	バス調達コストが単純に倍になり参加者負担が同じく倍になってしまいます。翌日がつぶれる。
一泊で活動できないか 活動後に温泉一泊で翌日も活動出来ないか	朝に出発して一泊の活動は可能、但し日曜日が潰れます。翌日休めるので参加の方も多し。
福島以外の地域での活動が出来ないか	現地ニーズとバス休憩時間等の確保により判断していきます。
大型バスで活動は出来ないか	現地活動ニーズと足回りにより中型までがフットワークが良く現状では中型までが適当です。

##### ②アンケート2 (参加者からの応援、一部です。)

【福島1便】生憎の天気でしたが、大勢の方が集まって協力し作業できてよかった。色々な思いや考えがあるだろうけどこれからは機会があれば参加し続けたいです。なかなか福島行きのボラバスはないので、今後も継続してください。(女性参加者)

【福島2便】福島に関わることで出来る活動の継続を期待。(男性参加者)

【福島3便】少しでも福島のために手伝ったことは良かったと思っています。とにかく福島に実際に来て現実を見る機会を与えてくださったことに感謝しています。(男性参加者)

## (5) 活動状況 (抜粋)

活動後に活動報告等をHPなどで掲載しています。その一部を紹介します。

## ①2012年5月18日「福島県福島市大波で除染ボランティアに同行取材 (ksvn 掲載)」

## 《除染活動とは》

5月18、19日、[かながわ「福島応援」プロジェクト \(kfop\)](#) の皆さんが福島県福島市大波での除染ボランティアに参加しました。福島市と福島市社会福祉協議会がボランティアを募集し、住民が生活する場所とその近隣のなかで比較的放射線量の高い場所を福島県内、県外から集まったボランティアが除染するというものです。学校や住居の除染は完了しつつありますが、道路や水田、公園など広範囲の除染が国や自治体だけでは進まず、そのニーズの一部にボランティアが応える形です。除染ボランティアに対して社会的にいろいろな意見があるなかで行動し続ける同プロジェクトから同行取材のご依頼を受け、土屋晶子が記者として編集チームより参加、現場を取材しました。

## 《活動日記》

午前10時、作業現場の大波城址に到着。かつて伊達藩の要所であった由緒ある場所での作業です。夏山へと移行しつつある山林での作業なので、繁茂する草との戦いになるか、と思いきや、すでにボランティアのために徹底した草刈りが行われていました。作業前の説明が行われた集会場では放射線積算量を計るガラスバッジのほか、防塵マスクやタオル、軍手やゴーグルなどが支給され、現場に行くと飲料水の支給や長靴洗浄用設備もあり、記者はこの日を準備された地元の方々の志に深く感謝しながら取材しました。総勢158人のボランティアのうち、大波外部からのボランティアと大波住民は2対1の割合。班分けはあったものの、現場では皆入り混じって汗を流していました。



一般的に除染には、落葉拾い、除草、苔の除去や洗浄、表土の剥ぎ取り、覆土、客土、また放射線量の計測とホットスポットの発見などが含まれますが、ボランティアの作業は専門の業者

の作業とは区別され、実際には落葉を熊手で掻き集め、ビニール袋に詰めて集積するところまでを担当します。現場の大波城址の斜面はかなり勾配の急なところがあり、落葉（腐葉土と化している部分が多い）の入った袋を持って移動するのは大変そうでした。kfopの皆さんが入った班は、午後はヒマワリ畑用の斜面を担当したので、木立の陰のない、直射日光の下での格闘となりました。

#### 《安全管理》

除染現場は空間線量  $2.5 \mu\text{Sv/h}$  以下の場所が基本です。放射線被ばくの測定は、各自がビブスのポケットに入れたガラスバッジのほか、モニタリング、スクリーニングが行われました。その他、現場で水を飲むときは、うがいをしてから飲む、移動のマイクロバスには泥、土を持ち込まない、追加被ばく年間  $1\text{mSv}$  以下の管理（地元のボランティアの場合、自宅周辺の線量を考慮）などの自己管理が必要です。現場は急斜面なので、切り株など足元の状態も注意が必要です。

ところで記者は初め、装着感の悪い防塵マスクではなく、持参の小さめのサージカルマスクで取材していました。しかし、思ったより土埃はあるもので、途中から支給の防塵マスクを着用しました。「地元の方は慣れてしまってマスクをしない」とも聞きましたが、不安を感じるのも慣れるのも人間の方で、だからこそ科学的データを十分駆使して自己管理しなくてはならないのだと思いました。



#### 《運動会、ヒマワリ畑計画》

帰りのバスから見ると、大波小学校の校庭で先生が1人、翌日の運動会のためか校庭にトラックの白線を引いていました。除染活動によってこうした子供たちの学校生活が少しでも充実したものになるのなら、それに越したことはありません。

実は、今回の除染ではkfopの入った班が担当した区域の放射線量が作業終了後上昇してしまいました。（ $1.64 \mu\text{Sv/h}$  から  $1.7 \mu\text{SV/h}$  へ上昇。）原因は、湿った落葉、腐葉土の下には苔類が隠れていて、それが覆いを剥がされて放射線を出しているということです。しかしこのあと業者が苔類の除去を行うので、結果的には除染効果を期待できます。ちなみに今回の活動で集まった落葉はゴミ袋約2500個分でした。

また、前述のヒマワリ畑は、後継者不足や高齢化などで耕作放棄地が増えている大波地区の地域活性化の試みで、6月10日には種まきを行うため、現在ボランティアを募集中ということです。景観のほか種を加工してヒマワリ油のドレッシングを生産する目的があり、ボランティア参加者には昼食のとき、味噌汁と一緒にこのドレッシングを使ったサラダが振る舞われました。（地元婦人会が準備してくださいました。）記者も大変美味しくいただきました。

さらに、ここで「霊山（りょうぜん）漬」という地元の漬物を紹介され、kfopの皆さんは帰りに際、観光ボランティアとしてこの店舗を訪れ、思い思いの福島土産を買い求めていました。

#### 《ボランティアの声》

kfopの26人の参加者のうち、半数以上がボランティアバスなど、かながわ東日本大震災ボランティアステーションでのボランティア経験者。登録ボランティアとしての岩手や宮城での被災地支援をきっかけに、福島へと行動範囲を広げています。その他にも、阪神淡路大震災の時から活動中、救急救命ボランティアとして活動中など、何らかのボランティア活動の背景がある場合がほとんどで、神奈川県外からの参加もあり、「この機会に福島に行きたい」との強い意向で集まったメンバーでした。つまり、目的は「福島への応援」、「福島の人々との交流」であり、その1つの手段として除染ボランティアを志したということです。帰りのバスで共有された感想の中でも「お助け隊などの計画が欲しい」、「大人数でなくてもいいので継続的に必要な支援を行いたい」、「ボランティア以外のことも思い出になり、活動に意欲が湧く」、「心を開いてもらっている感じがする」など、様々な可能性を秘めたコメントが聞かれました。

#### ☆取材後記☆

「kfopの外部の人間として、客観的に」レポートするという役目で同行した記者は、五月晴れの空の下、皆さんが黙々と作業を続けられる姿にファインダーを向け、シャッターを切り続けました。情けないのですが、それだけでも結構疲労感がありました。

ボランティアの皆さん、本当にお疲れ様でした。

5時間弱の取材の後、最終的に記者のガラスバッジは4 $\mu$ Svを表示していました。

さて、こうして集まった落葉、腐葉土はこれからどこでどうなって「無に帰する」のか？

簡単に言えば、国が最終処分場を決めて割り当てるまで仮置き場に保管する、のです。

実はこれに関する情報公開を自粛せざるを得ず、記者は「モヤモヤしたもの」を抱えてこの記事を書いています。あまりに普通な、のどかな田園風景の残像が鮮明なだけに、この「モヤモヤ」は日に日に倍増しています。

それと同時に、「どこでも起こり得る」という感覚、誤解を恐れずに言えば「自分の住んでいるところで起こっているような」印象が強くなります。要するに日本全体の現状が異常だということですね。

自分も含まれている異常事態にどう対応していくのか？

この問いがある限り、記者は被災地・被災者支援に「どんな形でもいいから自分の責任でできる範囲で」関わり続けようと思います。

（編集チーム 土屋晶子記）



②2012年7月31日「この空は、ほんとうの空ってことでいいですか？」



(福島県立あさか開成高校演劇部)

福島県立あさか開成高校（郡山市）演劇部

2012年7月31日（火）19：00～ かなつくホールにて上演

福島は知恵子の里（高村光太郎の知恵子抄）

- ・東京に空がないと言う
- ・ほんとの空が見たいと言う

k s v nのボラバスは深夜安達太良SAに立ち寄りの為に、安達太良山（阿多多羅山）を臨むことは出来ませんが、福島で活動する時はそこで仮眠し、臨むことが出来ます。

主人公のイソジン、”フオッフオッフオ”バルタン星人の芝居の練習、一見ふざけているようで実は思いが・・・。

バルタン星人は核実験のせいで自分の星に住めなくなった。

演劇のメンバーからは、でも少なくとも私達は住めなくなっていない、と葛藤

本来は、イソジンが作った「千恵子の里」をみんなで演じたかった。

だから、みんなで演じられない「千恵子の里」は演じられない・・・、なぜ？

そこに福島の実情があります。

そこに転校生のミナミナミ（下から読んで・・・）、「ドッカーン」「当時10キロ圏内にいた」で強制避難だと屈託のない言葉

- ・周りが引いていく（福島を避ける今にダブります）
- ・みんな謝る、慣れていきますとミナミナミ

その中でも、演劇部員達の葛藤

- ・大阪に転校することを打ち明けられずにいる部長
- ・転校したくない、でも私個人ではどうにも出来ない、親・仕事・国・県と部長
- ・それを知っていてバルタン星人の演劇練習をするイソジン
- ・ミナミナミになんでもっと遠いところに避難しなかったのだとイソジン
- ・久し振りに窓を開けて千恵子の詩を朗読するミナミと部員、閉めろとイソジン
- ・線量計・シーベルト・ベクレルを淡々と説明する部員

- ・”フオッフオッフオ”とバルタン星人の芝居の練習を続ける
- 「ほんとの空」の台本を観るミナミナミ、イソジンの本当の気持ちを知る
- ・自分自身を守れとミナミナミにイソジン
- ・見えない敵・見えない
- ・いつかみんなでこの空を、ほんとうの空を飛びたい、とイソジン

部長が転校を伝える

- ・避難する、大阪に、帰るかはわからない
- ・ミナミナミ、私は帰る「落書きしていたノート」を開けっ放して机に置いてきた、閉めに行かないと、閉じに帰りたい・・・、帰れるまでにどれだけかかるかわからないけど・・・、私の学校はタイムカプセル。

みんな

- ・”フオッフオッフオ”、バルタン星人の手はピースだ！
- ・フォー（ピース）で幕

鳴り止まない拍手、延々続きました。立って拍手、延々続きました。

彼らの精一杯のメッセージです。

すばらしいメッセージです。

神奈川の生徒さん、大人にも伝わったと思います。

演後のトークで

- ・福島に頑張れってなに？と部長役の生徒が、みんな苦しんでるんじゃない
- ・福島だけが苦しんでいるんじゃない、日本みんなが苦しんでいる
- ・だったらみんな頑張れでしょ！。と

これが福島の気持ち、彼らが言いたいことでもある。

でも、元に戻ってほしい、帰りたい、遊びたい、みんなに知ってほしいと言葉に出したくないことも演じて言葉にした。

神奈川で講演して頂き本当に良かったと思います。

福島を知らない方、通過する方、是非福島を訪れて下さい。

この劇を是非見てほしかった。

こんな純粋な子供達が、果敢に福島で暮らしています（いい悪いではなく）

8月1日は横浜の生徒さんとのワークショップとのこと、有意義な交流になると思います。

伝えて下さい、そして伝えていきましょう。

神奈川に、全国に。

素敵な生徒さん達でした。

( 記：なべ )

③2012年9月1日(土) なみえの“しゃべり場”



(なみえの“しゃべり場”)

なみえの“しゃべり場”が9月1日(土) 13時から桜木町の[県立青少年センター](#)で開催されました。

主催：[浪江町](#)

共催：[高崎市域震災復興支援委員会](#)

協力：[高崎経済大学](#)櫻井研究室

開催に当たり、[かながわ東日本大震災県内支援ネットワーク](#)、及び同ネットワークへの協力として当会、[かながわ「福島応援」プロジェクト \(kfop\)](#) も参加しました。

この“しゃべり場”は、「避難されている皆さんの交流を図りながら、浪江町への思いや困っていることなどを伺うものです」、進行は[高崎経済大学の櫻井常夫准教授のコーディネーター](#)の元で伊藤亜都子准教授、学生さん26名により進められました。朝に高崎よりバスでお越しになったそうです。学生さんの中には福島市笹谷ご出身の方(長澤さん)もおられました。



(浪江町長のご挨拶)



(高坂事務長の挨拶)

はじめに[馬場町長の挨拶](#)から始まり、町長から賠償、除染、健康管理・医療保障の課題について町役場が政府や県、東京電力と折衝している現状が報告されました。次にかながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークの[高坂事務局長](#)を始め私達 kfop も自己紹介をさせていただきました。その後町役場の職員の方が最近撮られた町の風景のスライド写真の上映と続けました。スライド写真は、草が生い茂った学校の姿や浪江駅などが映し出され、参加された町の方々から様々な感嘆の声が上がっていました。



(浪江駅の様子)



(模造紙に集められた想い)

続いて、学生さんが中心になり、生活で心配な事や、想い、町に対する要望などが9グループほどのテーブル毎で話され、町の皆さんから出された様々なお話を学生さんが付箋に書き取り模造紙にまとめ、その中からコーディネーターの櫻井先生から2グループほど指名され発表されました。

借り入れ住宅にいつまでいられるのかという不安や、福島からだだとわかると公共の場で、そこに座っては駄目だと断られるなどの出来事があった話。車のナンバーを傷つけられた話や、隣組の人達の所在を知りたいとか、重要な事は広報で即座に開示してほしいといった要望など様々な話が出ていました。当初は途中で退席予定だった馬場町長も予定時間をオーバーし、各テーブルをまわられ、皆さんの声に最後まで耳を傾けていました。

)

馬場町長より「がんばっていこう」という声があり、町民の皆さんが町長をかこんで写真を撮って会は終わりました。

私達もグループに入り話を伺いました。

- ・自分が故郷から離れていく様な（自分から離れたいわけではないのに）
- ・今は帰りたいというより帰れないだろうという気持ちが先行している

との話しや子どもたちの将来の結婚、お孫さんへの不安などの声が印象的でした。

神奈川のみなさん、お話を伺ったこと。福島に行かれたことはありますか？ 垣根なく。

神奈川県内の大学の皆さんも、縁があり神奈川に避難された方々の想いを伺い、また言葉を残されてはいかがですか？

戻る、戻らない、戻れる、戻れない、など先の見えない大きな不安を抱えられています。

来て良かった、と思っ頂ける「かながわ」でありたいですね。

かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークの活動で今後も警戒区域町の町民懇親交流会が行われます。私達kfopは、引き続き活動に参加していきます。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

(記：han)

④2012年9月10(土) 富岡町の交流会



(高坂事務局長の挨拶)



(富岡町役場の方のお話し)

9月10日(月)13:00~16:00に神奈川県民センターで富岡町さんの交流会が開催されました。  
 (9月1日(土)の浪江町さんの交流会に続くものです。)

当初、事前のお申し込みの方は16人位でしたが(予想40名位)、なんと、66名の方がご参加されました。また、富岡町役場・県の富岡町ご担当の方も3名ご出席されました。

初めに、「かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワーク」の事務局長高坂より会を始めるに当たっての主旨説明をさせて頂きました。(当会も協力をしています)。

- ・富岡町の方々(役場も含めて)の交流のきっかけになれば
- ・主体はあくまでも富岡町の方々、その応援をさせて頂きます。

続いて、富岡町役場より現況のご説明(遠藤町長は議会がありやむを得ずご欠席)

- ・皆さんが納得できる区域分けを要望
- ・上下水道等インフラ整備、生活に必要な商店や医療機関等の再開までには最低5年間を要す
- ・当面の帰宅は困難である。
- ・賠償については町内一律とし、帰還困難区域と同等の扱いを求めていく。

の要旨(詳しくは、富岡町HPの町長メッセージをご参照ください)。



(富岡町の桜)

その後に、富岡町の桜の風景などを見て頂き、お話しに入って頂きました。  
 お話に出た内容の一部です。

- ・6人家族がばらばらに避難生活をしている。(なんで一緒に生活出来ないのか)
- ・情報が少ない、フィードバックがない。
- ・誰がどこにいるのか分からない(何処に町の方からも同じ話しが出ます)
- ・9月末で切れる高速道路の無料化延長の願い(健康管理の為にも)

- ・住民票の問題（特例法の情報を知らせて）
- ・補償を少なくするためだけに警戒区域が見直される。
- ・動物も沢山残っている、特に猫は縁の下などに隠れて沢山いる。
- ・娘さん・お孫さんへの心配など、沢山の不安・悩みを抱えておられます。

当日は神奈川県伊勢原市の向上高等学校の教諭と生徒さんもお話を伺いに来られました。富岡町の方の中に入り、貴重なお話しに耳を傾けていました。

その中、最高齢でしょう、97歳のおじいちゃん

- ・誰もいない・引きこもりがち
- ・きょうはここにすれば誰か知っている方に会えるかと来た、と。

テーブル毎の自己紹介で立って声を絞って一生懸命にご自身のことを話されました。一生懸命に来られたんです。誰かに会えるかと…。分かりますか！！

残念ながら知り合いの方はいませんでした。

- ・花屋さんは分からないか
- ・お名前・所で誰か知らないか聞き

町の役場の方の関係の方を知っているご様子でしたので、お誘いしお話しをしていただきました。ほんのわずかな時間でしたが、お話が出来たかなと思います。傾聴が役に立つそうです。一緒にこられた娘さんが言っておられました。

一年半が過ぎようとして、神奈川での初めての富岡町さんの交流会です。

- ・お話しをしたい、同じ町の方に会いたい、の想いが先行したようです
  - ・質疑・意見も多くありましたが、皆さん帰りには連絡先の交換などをされ
- “もっと早くこのような交流会をなぜ出来なかったのか”と悲痛な叫びです。
- ・地元の町
  - ・神奈川も遅ればせですね

神奈川には480人もの富岡町の方々が避難されています。

開催への疑問もあるのかも知れませんが、前述の通りに一年半が過ぎようとしてようやくの“町の方々の交流会”の開催です。

神奈川の皆さん、この現実をどう理解されますか。そして“最低5年間を要す”

- ・97歳のおじいちゃん、帰宅可能となるまで支えも必要ですね
- ・もっともっと交流を進めて頂きたいですね、町・神奈川とも

今後、この会をきっかけに富岡町の方々が主体で、このような交流会が活発に進められるといいですね。

そして、やっぱり

「来て良かった、そんなことを言って頂ける神奈川でありたいです。」

次回は、10月8日（月・祝）双葉町さんの交流会が計画されています。

かながわ「福島応援」プロジェクト  
代表 渡辺孝彦

## ④2012 年 11 月 2 (土) 南相馬市小高地区活動



先週末、kfop さんの福島の南相馬ボラに参加してきました。活動の受け入れ先は[南相馬市生活復興ボランティアセンター](#)です。雨予報で心配でしたが、なんとか雨が降らずに活動できました。

福島第一原発から 20 キロ圏内にあり旧警戒地域である小高区での作業。地域の方々の心情に配慮して未だ写真撮影はできません。今回の作業は家屋内からの荷物運び。みんなで 2 階から重い段ボール箱を約 300 箱や家財道具をリレーで運び出しました。かなりの力仕事だったので腕や腰がすぐ筋肉痛になりました。

作業の合間に見たのは運行停止中の JR 小高駅前周辺。人影のない駅前はとても寂しく放置された自転車、草が伸び放題の線路、何度も巡回警備をするパトカーの姿。家主さんから聞いたお話だと、この周辺でも、残された電化製品や家財道具目当てで家が荒らされることがあるとのこと。

海岸付近は民家に津波土砂が堆積し、凄まじい津波の破壊力で壊された民家が震災後そのままの状態。田んぼには潰れた乗用車、シャベルカー、コンバイン、農業用サイロ、タンクなどが所々に取り残されたまま。上下水道はまだ復旧しておらず、未だ小高区付近は去年の 6 月頃の石巻のような状態です。震災後 1 年 8 ヶ月も過ぎたのにあまりにも悲しすぎる風景のままです。南相馬市を離れ、帰りのボラバスの車窓から見た飯館村は燃えるような鮮やかな紅葉が綺麗でした。しかしそののどかな山村風景のなかに、ひときわ目立つ白い防護服を着た何人もの除染作業員の姿。前回も前々回も飯館村で人を見たことがなかったので驚きましたが、のどかな山村の田んぼに大人数の防護服の作業員…。強い違和感を抱き、まだ線量の高いであろうこの地域に残る、目に見えない放射線の怖さを実感しました。

kfop さんの活動ではスタッフの方々のお力添えのもと安全対策がしっかりしており、今回も何の不安も感じることなく作業をさせていただきました。ボラバスが減ってきているなかで継続してバスを出し続けてくださること本当に頭が下がります。今回もお世話になりありがとうございました。

「続ける、伝える、忘れない」

ボラ仲間の言葉に初心を思い出しました。震災から 1 年 8 ヶ月。メディアでも被災地の話題がどんどん少なくなってきましたが、現地の方々はボランティアの姿を見るだけで心強く思ってもらえるそうです。これからも微力ながら故郷東北に通い続けていきたいと思えます。

( 記:麗子さん:参加者 )

## ⑤2012年12月14(土)「失われた街」トークイベントにて活動報告



[財団法人 神奈川県建築安全協会](#)様が主催された『失われた街 3・11のための「記憶の模型」展』関連トークイベント(全4回)最終回に、スタッフの山内さんが登壇しました。神奈川県建築安全協会様は、東日本大震災およびこれに伴う原子力発電所事故に対する復興支援活動に取り組む神奈川県内の災害ボランティア団体等を応援する[被災地復興支援活動支援金事業](#)をはじめとして、さまざまな公益目的事業を推進されています。

## [トークイベント概要]

日時 12月14日(金)18:00~20:00

事例報告1 かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業の活動 小野尚子氏 [かながわ東日本大震災ボランティアステーション]

事例報告2 サポートチームGの活動:市原信行氏 [サポートチームG]

事例報告3 かながわ「福島応援」プロジェクトの活動:山内淳氏 [kfop]

事例報告4 横浜南部市場共栄会の活動:大川貴志氏 [横浜南部市場共栄会]

コーディネーター:塩沢祥子氏 [かながわ東日本大震災ボランティアステーション]

## [報告内容]

かながわ「福島応援」プロジェクトの概要、活動実績、今後の活動予定を説明させていただきました。私たちがkfopを立ち上げる以前は、当初は有志が自家用車数台で福島市内の除染ボランティア活動に参加していました。さらに継続的に活動するため、2012年1月11日にkfopを立ち上げました。福島県で活動するのは難しい面も多いのですが、月1台のペースでボラバスを出しています。

同時に、他団体と連携しながら、神奈川県内での避難者交流会や、(横浜弁護士会の協力を得て)弁護士相談会などの活動も行なっています。東北3県から神奈川県への避難者は現在約2700人、自主避難者を含めると約3000人とされていますが、特に、福島県からの避難者は「福島から来た」と言いづらいと話す方もおられ、元々のご近所同士でも誰がどこに避難しているのか互いに知らないケースも多いのが実情です。そのような方々の力になればと考えています。他にも、福島を応援する活動にはさまざまな形があり、観光や買い物で支援することもできます。

kfopとして伝えたいのは、「福島がすべて危ないわけではない」、「福島から避難されている方を温かく迎えたい」、「色々なご意見はあるが、自分たちにできることがあればやりたい」ということです。

( 記 : 東 )



⑥福島の借り上げ住宅にお住まいの方へ  
「クリスマス餅つき大会」

2012/12/22(土)、福島市の「花見山」周辺にて、当会からご提案した「クリスマス餅つき」や「ミニミニコンサート」を開催する予定で訪問しました。

当日朝、東北自動車道の安達太良 SA を出発した頃からちらつき始めた雪が、福島市に入ると小雨に変わりました。

今回は食べものを扱うため、衛生管理には十分に気を遣うようにスタッフと参加者に周知徹底しました。餅米を蒸したり、お雑煮やお汁粉を大鍋で煮たりといった下準備は、現地のスタッフの方々がしておいてくださったため、kfop 参加者も現地の皆様と一緒に、餅つき、丸め、お椀への盛り付けなどを次々にこなします。どれも、やってみると見ている以上に難しく、慣れない手つきの私たちに現地のお母さん方からビシビシと指導が入ります。餅つきは予想以上に体力が必要で、本来の予定どおりなら男性陣は裏山整備に行っているはずでしたが、交代要員が多くてむしろ良かったのではないのでしょうか。昼頃になり、「私にも、つかせて」とお申し出頂いた男性は、なんと毎年7臼は餅をつくという大ベテラン。餅つきのコツを色々と伝授して頂きました。この方は車で30分ほどのところにお住まいで、時々お手伝いに見えられているそうです。



賑やかに餅つき



お雑煮やお汁粉で

こちらでは、普段から「ふれあい茶屋サロン」や足湯、チャリティーバザーを開催し、近隣に避難されている方を支援されていますが、この日も朝一番から次々にお客様がおいでになり、

つきたてのお餅を楽しめました。午後は客足は少し落ち着きましたが、「お餅があるってえから、お昼を食べずに来たのよ～」とコロコロ笑ってお餅を召し上がってくださる方もおられ、ゆっくりお話を楽しませていました。



(ミニミニコンサート)

一方ミニミニコンサートは、事前に練習を重ねてこられた kfop 参加者のスタッフがギターとリコーダー、そして飛び入りでボーカルも加わりつつ、足湯がある一角をお借りして、クリスマスソングなどを演奏しました。サンタやトナカイのコスプレも喜んで頂き、一緒に記念撮影をされる方もいたそうです。お子さん向けに用意した袋詰めのお菓子も喜ばれました。

つきあがったお餅は、すぐに食べない分は避難者の方々やご来客の方々に配布して頂けるように、鏡餅と伸し餅にしました。ご準備頂いた餅米が、あと1臼分、時間内につききれず残ってしまいましたが、できる限り片付けをして残りは現地のスタッフの方々にお任せし、15時にはお見送り頂きながら現地を出発しました。帰りのバス車内での振り返りでは、ボランティア活動とはいえ自分たちも楽しめたという声が多かったです。また、現地に避難されている方々の笑顔に触れ、色々とお話を伺えたことは、またとない経験になりました。



(コットンベイブ)

またこの日、kfopのスタッフの一人が、[NPO ザ・ピープル](#)が中心となって運営されている「いわきオーガニックコットンプロジェクト」をご紹介します、いわき市で無農薬栽培され収穫された和綿で作られたコットンベイブというマスコットを kfop 参加者と花見山を守る会に寄付させて頂きました。このマスコットには和綿の種がそのまま入っているのですが、5月下旬頃から栽培して綿花が収穫できたら、再びこのプロジェクトにお返しすると現地でのものづくりに使ってもらえるそうです。

( 記 : 東 )

## ⑦2013年3月23(土)「花に願いを」活動報告

昨日(3月23日)、kfopさんのボラバスで常円寺さんの福島復興プロジェクト「花に願いを」の除染ボランティアに参加してきました。



(市街を望む)

行政による住居などの除染は進められていますが、身近な通学路など道路上に点在するホットスポットまでの細かな除染は手が及ばない状況だそう。

「花に願いを」では通学路などの除染作業と作業で出た放射性物質の仮置き場をお寺の敷地内に作り保管したり、草花を利用して土壌浄化を進める活動をしているそうです。

今回は小学校や保育園の通学路、民家の前の普通の一般道路にある事前に計測してあるホットスポットを地図上でチェックし、一人一台計測器を持ちピンポイントで堆積物を除去する作業です。

道路の歩道のコンクリートの継ぎ目や電柱、標識の周り、段差のはじなどに堆積している土や雑草、苔に計測器をあてると7~9 $\mu$ sv/hと高い数値がでます(昨日の作業で一番高い場所では21 $\mu$ sv)計測器は3 $\mu$ sv以上だと警告音が鳴るので1 $\mu$ sv以下になるように小さいスコップやはけ、金属ブラシ、マイナスドライバーなどで土を掻き出します。

でもあまり廃棄物を増やしたくないので取りすぎないように丁寧にかつ的確に除去します。線源を除去しても風雨などにより再び堆積はするけれど、

- ・通学路などは定期的に地道な除染作業をすることが重要であること
- ・目に見えなくても線源を取り除くことで確実に数値が下がること
- ・このような除染作業は特別に難しい技術のいる作業ではないのでボランティア向きであること(自ら志願して来るボランティアなので作業に手を抜くということはありません)

などがわかりました。

「花に願いを」では実際に計測器を携行しその数値も知らせてもらえますので累積放射線量の数値も自らチェックもできます。

昨日の除染作業で私は2 $\mu$ svでした

一般公衆の線量限度(年間)は1mSv(=1000 $\mu$ Sv)ですので、※

- ・胃のX線集団検診(1回)0.6mSv(=600 $\mu$ Sv)、※
- ・胸部レントゲンで0.05mSv(=50 $\mu$ Sv) ※
- ・昨日の作業では0.002mSv(=2 $\mu$ Sv)

※文部科学省HP「日常生活と放射線」より

単純に換算しての数値であり、何が本当の情報であり嘘なのか本当に正しいかどうかは確証はありません。

でもあくまでも私の個人的な意見ですが年に数回程度のこのような除染作業ならば、私自身は問題なく行えると思いました。（無論、無用の追加被曝はないことが一番良い。by 代表補記）

少しでも子供達が安心して通える通学路になりますように  
以前までの平穏な暮らしのように普通の生活が普通におくれるように  
と願いながら作業させていただきました。

作業後に常円寺さんの仮置き場を見させていただきました。仮置き場にはドラム缶の除染太郎に汚染土を保管し封じ込めているのでフタのすぐそばで計測しても  $5\mu\text{sv}$  ほどでした。近隣の住民の方々に理解をしてもらった上で自らの土地を提供したご住職、本当に頭が下がります。



除染作業が進まない理由の一つは、市の仮置き場が見つからないので、一般住宅地の除染作業では民家の敷地内に穴を掘り埋めて一時保管しているそうです

自分の自宅の庭に廃棄物を保管していること

通学路にホットスポットがあること

自分の住む住宅地に仮置き場を設置されようとする

、、、想像してみてください

日本全国に原発があります

決して他人事ではありません。

地方にだけリスクを負わせるのも

福島にだけこの苦しみを負わせるのも間違っていると思います。

速やかに除染を進めるためにも仮置き場や中間貯蔵施設、最終処分場などの問題を解決することがまずは先決だと思います。

短い時間でしたが地元の方々にお話を聞き、除染の現状や今の問題点など現地の実状の一端を知ることができました。

南相馬にも5回ほど通っていますが県内でも抱える問題は様々であることや自分自身の放射性物質への認識も新たに、また深く考えて勉強しながら行動し続けていかねばならないと思いました。

常円寺さんや地元の皆さんやkfopの皆さんとこれからも微力ながらボランティアをさせていただきます。

kfopではボラバスがどんどん減るなかでも継続してバスを出す予定だそうです。私たちいちボランティアにとってボラバスは、個人的に高速バスで移動をするよりも費用もかからず、かつボランティア作業に集中できるので継続されること本当にありがたいです。kfopの皆さん、ご一緒させていただいた皆さん、お世話になりありがとうございました。



(お春地蔵)

( 記：参加者 麗子さん )

(追記) 帰路車中での振り返り・アンケートなど

### 1. 振り返り

・地道な作業。空間と直置きの違い。大量に除去すると廃棄土が膨れる。確実に成果は出る。数字ボラ。なかなか下がらない所もあった。まさにボラが有効な作業。中ボラも全部お手伝いが終わらなかった。などなどの話し。

考える一つのきっかけになって頂けたのではと思います。

### 2. 活動の課題

・如何にしたら長くお手伝い出来るか。

→昼食時間・移動時間を少なくする(否：作業の前提事項があること説明)。

→帰路のお風呂を無くす(夏場は辛い)、時間を短縮する(30分削減?)

→福島のお土産を買う大切な時間は削りたくない。

→帰路の夕食の時間を短縮する、飯舘村のお母さん達の弁当にする(25分削減?)

→17時過ぎに高速に入ると割引が聞くが早く入場すると・・・。

・如何にしたら多くの方とお手伝い出来る。

→大型バス、朝帰る、一泊。(バス代、無理なく長く、他の方への影響)

→現地の方の受入準備・体制に無理な押しかけとなることは良くない。

など、継続の中でさらにどうしたら、の色々知恵を頂きました。

( 追記：代表 )

南相馬でのハード系の活動、福島市内での活動、会津での子供支援、このように力仕事だけが「福島応援」ではありません。浜通り、中通り、会津地方、それぞれで見える、見えない現実があります。行って見て、見てみて、聞いてみて、それぞれに応援が必要なこと、できることを考え、できることを続けていきましょう。

( kfop代表 )

#### 4. 2013年度(平成25年度)活動計画

##### (1) 活動方針

昨年と同じく、今までと同じように笑顔が溢れ、子供たちも楽しく、のびのびと遊んでいる福島県であることを願い活動を続けます。また、神奈川県から応援の輪を広げるために一人でも多くの方の参加者と活動をしていきたい。そんな願いで今年度も福島の応援を進めて行きます。

活動概要としては

- ・直接活動（福島に直接行き、街中掃除、避難されている方へのお手伝いなど）
- ・県内活動（神奈川に避難されている皆様への少しでもお手伝いを、など）≪追加≫
- ・情報発信（福島での活動、福島の観光情報、温泉情報、果物情報などなど）

個人の集まりで出来ることを進めます。

##### (2) 活動方向

年初の計画から現地状況により変化があり、一部調整がありますが、以下の方向で進めて行きます。それぞれのニーズ、参加者の声、また当会の実力（人的・予算的）も見据えて、進めて行かなければならないことに目を向けて活動を行います。

###### ①直接活動

・「花に願いを」の活動	そこに住む方・子どもさん達の応援	実施
・浜通りの活動	復旧・復興応援	現地ニーズにより
・現地交流会、他	繋がり	現地ニーズにより

###### ②県内支援

・交流会	繋がり	調整中
・ふるさとコミュニティinかながわ	繋がり	実施

###### ③情報発信

・情報発信	観光応援	実施
・観光ボラ（観光会社さんの役割）	現地を知る、観光応援	対象外

### (3) 活動概要

#### <①直接活動>

##### ①-1 「花に願いを」さん、の活動

平成24年度の最終便である福島12便で活動させて頂きました「花に願いを」さん、の活動を推進します。

福島には、浜通り、中通り、会津地方があります、それぞれに抱えた課題は同じこともあれば違うこともあります、その中、子供さんを想うことは皆さん同じと思います。また、その応援の仕方・形は色々違いますが、当会はこの活動に目を向け進めます。元々のきっかけは、福島に電話をすると、大丈夫・大丈夫が返事ですが、最後には必ず…が、で終わります。その…が、その一つです。ここまで来るのに一年半掛かりました。多くの時間で活動が出来る訳ではありませんが、参加者がいる限り、参加者が一人になっても続けていきたいと思えます。そこに住む方、未来への宝・子供さん達への応援です。

- ・方向性：毎月1回、定期的を持ち活動する。
- ・参加者：20名（外ボラ15名、なかボラ5名）を最大として活動へ参加。
- ・課題は：活動費と計画的実行が可能か、また活動時間を如何にしたら延ばせるか雨天時の活動対策。

##### ①-2 浜通りでの活動、他

平成24年度も3度程活動をさせて頂きました、募集と同時に満席になり、一度はバスを追加し2台で活動をさせて頂きました。今後も意に沿う沿わないとは別に警戒区域解除となる場所があります、現地は時間が止まっています。瓦礫系での活動他、現地のニーズがあれば活動が行えます。（現在、ニーズは10人以下のお話を受けておりますので、活動は控えています。）

- ・方向性：現地ニーズを確認しながら出来る中で進める（①-1は定期活動の方向）
- ・参加者：現地ニーズ数
- ・課題は：現地ニーズの状況、活動時間とバス運転手の休憩時間確保（＝現地の足の確保）  
当会スタッフのマンパワー（①-1と並行で出すパワー）

##### ①-3 現地での交流会、他

平成24年度は12月に花見山周辺で「クリスマス餅つき大会」を実施しました。現地ニーズ（活動先と応急仮設住宅、もしくは地元住民との）があれば、計画したい。

- ・方向性：現地ニーズを確認しながら出来る中で進める
- ・参加者：20名程
- ・課題は：現地ニーズの状況（無理に押しかけでの活動は行わない）

## <②県内活動>

活動当初は、私達は福島の実地に直接行き応援する、神奈川県内に避難されている方へは神奈川にいる方々で応援してほしい、そのつもりでいましたが、なかなか県内での応援がオール神奈川で進んでいるのかが良くわかりませんでした。その中、かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークが立ち上がり活動が進められ、私達 kfop も弁護士よろず相談、町別交流会、ふるさとコミュニティ in かながわと、活動の協力・共催をさせて頂きました。

まだまだ5年先は帰れない、そんな話があります、ここで応援を終わらせて良いのでしょうか？神奈川県民の方々は、そんな身近におられる県外から避難せざるを得ない方々の存在、声を聴いたことがあるのでしょうか？だから続けたい。

### ②-1 交流会（定期）

平成24年度に「かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワーク」で弁護士よろず相談会、町別交流会が進められました。この形を絶やさずに毎月一回の定例で寄り添いを続けたい。

- ・方向性：毎月一回の定例の形で運営したい（町を問わず）
- ・記録：残すこととして、毎月新聞（簡易なもの）的なものを作りたい。
  - ・主な出来事、交流会情報、避難されている方々の声、他情報
  - ・避難されている方々への通信、県民向け情報として発信したい
- ・参加者：kfop スタッフ他が1～2名で担当し、他は避難者の方が主体となり運営
- ・課題は：避難されている方々自らの運営、我々はその後方応援  
開催場所の確保、運営費用（そんなには掛からない）、スタッフ

### ②-2 ふるさとコミュニティ in かながわ

平成24年度に「かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワーク」で町別交流会とは別にふるさとコミュニティ in かながわを実施しました。

第2回目では「ふるさとコミュニティ in かながわ」実行委員会を組成し、当会も共催をさせて頂きました。同じく、これも絶やさずに続けたい。

（運営は“ふるさとコミュニティ in かながわ実行委員会”で決定）

- ・方向性：年に2回を日程決めし開催したい
- ・参画：当会も共催並びに実行委員会メンバーとして参画
- ・課題は：避難されている方々自らの運営、我々はその後方応援



## &lt;③情報発信&gt;

今までの通りに、当会のHPなどで「福島」の情報発信を進めます。

- ・観光情報
- ・温泉情報
- ・果物情報
- ・農産物情報 などなど

尚、観光ボラ（現地を知る、観光応援）は観光庁からも観光会社さんへ促進を発信していますので、観光会社関係様による福島を含めた観光促進（含む、現実を知る）を期待します。

よって、当会の活動としての推進はありません（除く共同企画）。

## (4) 年初計画より一部変更事項 (寄付金など用途計画)

現況反映後	変更	年初計画
神奈川県内避難者交流会、年2回 (ふるさとコミュニティ in かながわ)	無	神奈川県内避難者交流会 (同左)
予算：340,000 円 (寄付金)		予算：340,000 円
県内避難者交流会 (毎月1回開催) へ <変更理由> 【目的】福島県内での避難者交流会は地元根付き色々な団体が活発に活動されている、反面神奈川県内に避難せざるを得ない方々が今後5年は帰れないと言われる中で、H24 に協力し実施の町別交流会などを絶やさないために継続が重要と判断した。 【効果】kfop でその継続を担いたく優先と位置付けた。(福島県内の交流会も現地ニーズの声があれば別予算で計画したい) 【計画】継続し毎月一回の交流会開催	有	福島県内での避難者交流会 (クリスマス・餅つき大会など)
【予算】一回予算 5,000 円×11 回 (5 月～) 合計 55,000 円(寄付金より 50,000 円、繰越金 5,000 円) 補足：計画実施出来ない場合、余剰がある場合はボラバス現地活動費などへ充当、不足時は繰越金を充当する。		予算：50,000 円
現地活動費用 ・目的明確化：「花に願いを」の活動他バス費用 ・用途明確化：参加費 500 円相当を寄付金で軽減 (全体では 900 円軽減、400 円相当は繰越金充当) <変更内容> 【目的】活動時間を定時まで延長を計画。対応策はバス座席 (中型・小型) を満席とせず 20 人程度の参加者としストレス軽減を図り、帰路の風呂時間の短縮、夕食時間の短縮により捻出する。現地受け入れも 20 人程でマッチする。これにより一人当たりの参加費見積りは 7,400 円程となるが寄付金で 500 円負担、繰越金で 400 円負担し、参加費を現在の 6,500 円に維持する。 【効果】①活動継続②活動時間延長③参加者ストレス軽減④参加者負担軽減を図り、福島応援の継続に繋げる。 【計画】5 月便より 11 回 (11 便) を計画	有	現地活動費用 参加費を現在の 6,500 円から 6,000 円へとし参加者負担を 500 円相当軽減し、福島応援の継続を図る (バス費、現地レンタカー)
【予算】110,000 (寄付金) ※1 万円×11 回 (他、前年繰越金を 400 円相当額充当する)		予算：120,000 円

【補足】各便に固定で 1 万円充当。参加人数の増員等により活動費が参加費で充足して行く時は、繰越金の充当額の減額、また参加費で現地でのレンタカー代、他活動経費を賅って行く。他状況で判断。

※他、予算計画は後述の通り。

## (5) 予算計画

総収入		総支出	
前年度繰越金	275,860円		
参加費	1,579,500円	バス直接費用 (内、110,000円を寄付金で支出)	1,760,240円
会費(現正、賛助会員74名)	74,000円	レンタカー (現地での足)	121,000円
寄付金など	330,000円	毎月交流会 (内、50,000円を寄付金で支出)	55,000円
寄付金など(二次予算)	620,000円	ふるさとコミュニティinかながわ (480,000円を寄付金で拠出)	480,000円
-	-	機材購入費(terra-N6台×22,500) (内60,000円寄付で支出)	135,000円
-	-	浜通り支援活動 (内100,000円寄付で支出)	100,000円
-	-	視察費 (年2回×4人相当)	120,000円
-	-	維持・管理費 (ロッカー、印刷費他)	50,000円
収入計	2,879,360円	支出計	2,821,240円
収支(次年度繰越金)			58,120円

- ①参加費 : 4月便149,500円 + 一人6,500円×20人×11回(便)で算出  
 ②会費 : 一人一口1,000円(最少口数)×74名で算出  
 ③寄付金など : 不確定(不足時は、計画支出部分の一部を削減する)  
 ④バス直接費用 : 4月便149,070円 + バス費+仮眠所代+高速代金×11回(便)で算出  
 ⑤レンタカー : 現地での足用(8人乗り車、ガソリン込み)×11便で算出  
 ⑥毎月交流会 : 一回5,000円(お茶、資材他)×11回で算出  
 ⑦ふるさとコミュニティin... : 共催拠出240,000円(当会が持てる範囲)×2回で算出  
 ⑧視察費 : 福島(新幹線)往復×4人×年2回で算出  
 ⑨維持・管理費 : ロッカー代、印刷代、通信費他、前年実績を参考に算出(概算)

(6) 活動日程 (計画)

【2013年度上期】 凡例 (便：ボラバス、00：定例会、00：交流会+定例会、交：コミュニティ)

4月							5月							6月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
						55														
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
						51							53							
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
				13便	休館						14便									休館
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
						52							54					15便		
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
																				57

7月							8月							9月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
						60														62
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
						58							61							
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
				16便								休館							交	63
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
						59					17便							18便		
29	30	31					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
														30						64

【2013年度下期】

10月							11月							12月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6					1	2	3							1
						65														69
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
						66							67							70
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
					休館							68								休館
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
				19便							20便							21便		71
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29
														30	31				休	休

1月							2月							3月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5						1	2						1	2
		休	休	休									74							76
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
						72							75							
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
						73						休館								77
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
				22便							23便						24便			
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28			24	25	26	27	28	29	30
														31						78

## 5. 最後に

当会は、粛々と活動を進めます。

当会は、現地の福島に行き直接に福島の応援をします。  
福島の皆さん、福島の子供さん達が明るく元気に遊んでいる、そんな今までの福島であることを願い活動を進めます。

さらに、神奈川県内に避難せざるを得ない皆さんの少しでもお手伝いが出来れば  
私達は避難されている皆さんから見たら、何にもわかっていない、わかっていないかも知れませんが、すこしでもお気持ちに近づき、お手伝いをさせて頂ければ、の想いです。

福島は、浜通り、中通り、会津地方があり、同じ課題、違う課題が存在しますが、思うところは同じと思います。

現在置かれている環境は、福島の皆さんの想いではなく、そうさせられてしまったもの

- ・同じ県内での分断（浜通り、中通り、会津地方、町、ご近所、ご家族・・・）
- ・県内と県外での分断（福島県と他県・・・）
- ・県外での分断（強制避難・自主避難・・・）

違う想いではなく、同じ思いへ進みたいと思います。

そして、子供たちは、街の未来の宝、市の未来の宝、県の未来の宝、国の未来の宝です。  
その子供たちが福島県の未来を担うと思います。

活動の仕方はそれぞれにあります

未来の宝、子供たちの安心安全を願うのは同じ想いと思います。

また、実際に、現地に行くことにより、県内に避難されています方々と触れることにより分かる事柄が沢山あります。その一つでも知って・感じて頂きたいとも思います。

私達は、軸をぶらさずに、いつか心から笑える日が来ることを願い、参加者の皆さんと活動を続けて行くことと思います。

福島の応援を続けます、これからもよろしくお願い申し上げます。

2013年3月31日  
かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)  
代表 なべ（渡辺孝彦）  
スタッフ一同

保護ページ